

活動期潰瘍性大腸炎に対するベ ドリズマブ皮下投与製剤

武田薬品工業株式会社は、ベドリズマブ皮下投与製剤による維持療法の有効性および安全性を検討した VISIBLE1 試験の結果を発表、欧州消化器病週間（United European Gastroenterology : UEG）にて報告しました。



同試験は、非盲検下にて同剤静注製剤による導入療法を2回行った後、試験開始6週時点で臨床的改善が得られた中等症から重症の活動期潰瘍性大腸炎の成人患者を対象とした臨床第3相試験。



52週時点において、皮下投与群はプラセボ投与群と比較して臨床的寛解の達成率が統計学的に有意に高いことが示されました（46.2% vs. 14.3%; $p < 0.001$ ）。また、同様の速度の臨床的寛解の達成率（42.6%）が、静注投与群でも確認されました。